

## 夏休みに伸ばそう！子どもの情報活用能力

～ 情報モラルもしっかり身につけるための3つのアイデア ～

もうすぐ始まる夏休み、ゲーム機で遊ぶ時間が増えて心配という保護者の方も多いのではないでしょうか。子どもがデジタル機器（タブレット、ゲーム機、スマホ）を使う時の保護者の関わり方を少し工夫することで、子どもの情報活用能力をアップさせる土台を育み、情報モラルもしっかり身につけられるようになるアイデアを3つご紹介します。

デジタルが苦手な保護者の方は、言葉を聞いただけで難しいと感じてしまうかもしれませんが、ご安心ください。最も大切なのは、子どもとの対話です。

まだ親の目が届く小学生のうちに、子どもがデジタル機器との上手な付き合い方を身につけられるように保護者のサポートが重要です。今のタイミングを大切に。

### <目次>

- 1、ルールは、親子で一緒に決める。たまには、親も一緒に楽しむ。
- 2、子どもが何かを欲しがったら、プレゼンをさせる絶好のチャンス
- 3、デジタル体験が増えた分、アナログ体験を増やす。

### 1、ルールは、親子で一緒に決める。たまには、親も一緒に楽しむ。

「もう！何時間ゲームをやっているの！やめなさい」「ちゃんと時間を守ってゲームをやっている？」こんな風についつい子どもに怒鳴りたくなりますが、親から押しつけられたルール、子どもが納得できないルールはなかなか守られません。

使う時間、使う場所などのルールは、親子で話し合いながら作り、必要に応じて柔軟にルールを見直すことが出来るようにすると良いです。自分で決めたことだから守ろうという動機づけになります。

親子で一緒に楽しむのにぴったりなのは、キーボードを使った文字のタイピングゲーム。親子で対決したら、白熱すること間違いなし。学校で子どもたちが挑戦しているキーボード練習はこちら。

寿司打 → <http://typingx0.net/sushida/>

ココアの桃太郎タイピング → <https://pokedebi.com/game/momotype/>

ゲームでは、創造力を育むデジタル版ブロック遊び「マイクラフト」もおすすめです。ゲーム機、パソコン、タブレット、スマホで楽しめます。親子で一緒に作品を作りあげること  
も可能です。地元では、マイクラフトの作品発表会が開催されました。

マイクラフト子どもプレゼンテーション大会 → [https://youtu.be/b867\\_ZSZhV8](https://youtu.be/b867_ZSZhV8)

## 2、子どもが何かを欲しがったら、プレゼンをさせる絶好のチャンス

子どもから、何かを買って欲しいと言われたらどうしますか？仲間はずれにならないよう  
買ってあげてしまう、頑張ったご褒美に買ってあげるなど色々な方法がありますが

なぜそれが欲しいのか？それを手に入れてどんな未来を手に入れたいのか？を子どもにプ  
レゼンテーション（自分の考えを相手に伝えるために効果的な説明をすること）をさせる  
絶好のチャンスです。

何とかして説得したい！という明確な目的を持って、自分の思いをまとめた経験、書籍やイ  
ンターネットで情報収集した経験、やっと伝わったという達成感や成功体験は、子どもの情  
報収集能力や情報活用能力を大きく伸ばします。

## 3、デジタル体験が増えた分、アナログ体験を増やす。

子どもがデジタル機器を活用するようになると、ゲームのボイスチャットで人を傷つける  
ことを言ってしまう、SNS に悪口を書き込んでしまうなどのトラブルが起こります。お互  
いの顔が見えない状況で起こるため、問題がこじれがちです。

トラブルにならないためには、自分の感情をコントロールする力、行動の先に何が起きるの  
かを想像する力が大切です。子どもを被害者にも加害者にもしないためには、道徳観や正義  
感を育む必要があります。

デジタルでの体験が増えた分、アナログでの体験をぜひ意識的に増やすようにしてみてく  
ださい。自然の美しさ、生命の尊さを感じる体験をさせたり、お手伝いなどの生活体験で子  
どもの成長や存在を認めてあげたりすることで、自分も他人も大切に作る心が育ちます。ま  
た芸術作品など本物に触れることで、子どもの感性や表現力も磨かれます。

以上、親子の対話を大切にしたいデジタル機器の関わり方の3つのアイデア、いかがでした

でしょうか？気になるものがありましたら、ぜひ試してみてくださいね。

-----

インターネットを使い始めたばかりの子どもたちは、これはやっていいことなのか？まだ自分で判断ができません。親も子どものやることをずっと見守るのは困難です。そこで役立つのが、フィルタリングやスクリーンタイムなどの機能制限です。

子どもの発達段階に合わせたフィルタリングの必要性（デジタルアーツ株式会社のサイト）  
<https://www.daj.jp/cs/filtering/lessons/02/01/>

ただし、最初にお伝えしたように、機能制限は親子で対話をした上で設定するようにしてください。なぜ？どうして？制限をかける理由をしっかりと子どもに伝えることが大切です。

-----

袋井市の ICT 教育は、幼小中一貫教育や思考ツールの活用などこれからの時代に対応した教育の取り組みの土台があり、そこにデジタル機器を上手に組み合わせて魅力的な学びを実現しており、全国的にみても進んでいます。

さらに、二学期からは1人1台の学習用タブレットの家庭への持ち帰りもはじまり、活用場面が広がります。保護者の見守りも重要となります。

1人1台の学習用タブレットの活用により、個別最適化（ひとりひとりに合った学び）や主体的な学び（自分から学びたいという意欲づけ）が実現します。子どもたちが学ぶことが楽しい！表現することが楽しい！と進んで学習するようになったら、保護者としては嬉しいですね。

たっぷり時間がある夏休み、親子の対話を大切にしたい子どものデジタル機器の使い方の見守りをぜひ試してみてください。子どもの意欲や成長、認めてあげるきっかけが見つかるはずですよ。